

氏名：鏡耀子

所属：人文学部人間文化学科 2年

派遣先：ラトビア大学

派遣期間：2015年8月27日～2015年9月10日（14日間）

<日本語教室での指導内容>

授業は1回90分で1日2回ずつ、それぞれ初級クラスと中級クラスとなっていた。初級クラスでは、動詞の活用、自分の感情や人の外見を表す形容詞、色の名前、天気の名前、服やアクセサリィの名前を教えた。中級クラスは、漢字の勉強を強く希望する人が何人かいたので、会話のクラスと漢字のクラスに分けて行った。私は漢字のクラスを担当し、毎回部首を決めてその部首を含む漢字を挙げてもらい、その意味や読み方、用例などを解説するという形式で進めた。

ラトビアの生徒は日本の生徒と同じように、クラス全体でいるときはとても大人しいが、グループに分けると活発に話してくれるようになった。そこでグループでの会話練習やゲームを積極的に取り入れるようにした。また発音練習をするなど声を出す機会をつくると、クラスに活気が生まれるとともに、反応してくれることで安心して授業を進めることができるので良かった。

<日本語教室以外での現地での交流活動>

毎回授業の後は生徒と他のチューターと一緒に食事に行き、さまざまな話をしたりゲームをしたりラトビア語を教えてもらったりと、とても密度の高い交流をすることができた。授業の前や休日には生徒と一緒にリガの街へ行き、観光や買い物を楽しんだ。ラトビアの人はドライな人が多いと聞いていたので、内向的な自分が仲良くなれるかどうかとても不安だったが、日本語やお互いの国のことについて話しているうちに打ち解けることができた。ラトビアの人たちの優しさや先に来ていたチューターに助けられたように思う。

また、ラトビアに留学している他大学の日本人と交流する機会もあり、一緒に食事をしたりツェーシスという町に旅行に行ったりした。日本人の目から見たラトビアについて語り合ったり、情報を交換したりして、良い刺激をたくさん受けることができた。

<プログラムに参加した感想>

初めのうちは、慣れない土地で心細かったり予期せぬハプニングがあったりと、正直に言って早く帰りたいと思ったこともあった。しかし現地で出会った人々と交流を重ねたり、ラトビアの文化や美しい街並みに触れたりしながら過ごしているうちに、1日が本当に楽しく充実したものになってゆき、最終的にはもっと



滞在したいとすら思うようになっていた。

このプログラムで得られたものは本当に大きく、想像していたよりも何倍も濃密な2週間となった。多くの人との縁ができ、楽しいことから大変なことまで様々な経験をし、あらゆる面で成長させてもらうことができた。勇気を出してこのプログラムに参加して本当に良かったと心から思っている。

<自分の目標の達成度や努力した経緯など>

私は日本語を専攻しており、日本語教育に興味がある。そのため実際に日本語を教えることで学習者の視点から日本語を見つめ直したり、問題解決能力やコミュニケーション能力などのスキルを身に着けたりしたいと考え、本プログラムに参加した。結果として、日本語を教えるにあたって語句や文の構造を改めて考えさせられたり、生徒からの質問にはっとさせられたりしながら、日本語の難しさ、面白さを再確認することができた。また、状況に応じて1人で考え、対応しなければならない機会が多く、そういったことが苦手な私にとって大変なことも多々あったが、その甲斐あって問題解決能力は鍛えられたと思う。さらに、コミュニケーションの面においても成長することができた。私は英語に自信はなく、初めは聞き取ることも話すことも満足にできず焦ってばかりだった。しかし、少しずつ慣れて会話ができるようになっていったと同時に、表情を豊かにしたり相手の気持ちをくみ取る努力をしたりと、言葉が通じないからこそそのコミュニケーションの取り方を考えるようになった。

<今後の展望>

意欲的に、そして楽しみながら日本語の勉強に取り組むラトビアの生徒たちを見て、自分の英語学習に対する意識が変わった。自分ももっと本気で英語を勉強したいと思うと同時に、英語を勉強することに楽しさを見いだせるようになった。学校でも実践的な英語学習の機会がたくさん設けられているので、それらを積極的に利用していきたいと思う。

また、今回海外へ飛び出してみて、世界の広さ、自分の知識の乏しさを改めて感じた。今後はさらに様々な国へ行って、知識や経験を積みながら自分自身を豊かにしたいと思う。

